イベントの詳細を理解する

Active IQ Unified Manager

NetApp
November 13, 2026

This PDF was generated from https://docs.netapp.com/ja-jp/active-iq-unified-manager-918/events/concept_event_state_definitions.html on November 13, 2026. Always check docs.netapp.com for the latest.

目次

イベントの詳細を理解する . . . 1
- Active IQ Unified Manager のイベントの状態 . . . 1
  - イベントのさまざまな状態の例 . . . 1
- Active IQ Unified Manager のイベント重大度タイプについて . . . 2
- Active IQ Unified Manager のイベントの影響レベルについて . . . 2
- Active IQ Unified Manager のイベントの影響範囲について . . . 3
- Active IQ Unified Manager がオブジェクトのステータスを計算する方法 . . . 4
- Active IQ Unified Manager の動的パフォーマンスイベントについて . . . 4
- Active IQ Unified Manager によって検出された構成変更 . . . 5

イベントの詳細を理解する

Active IQ Unified Manager のイベントの状態

イベントの状態を確認すると、対処が必要かどうかを特定するのに役立ちます。イベントの状態は、「新規」、「確認済み」、「解決済み」、「廃止」のいずれかになります。「新規」と「確認済み」のイベントの両方がアクティブなイベントとみなされます。

イベントの状態は次のとおりです。

- 新しい

  新しいイベントの状態

- 承認済み

  イベントを確認したときの状態

- 解決済み

  イベントが解決済みとマークされたときの状態

- 廃止

  イベントが自動的に修正されたか、イベントの原因が有効でなくなったときの状態

  廃止状態のイベントを確認または解決することはできません。

イベントのさまざまな状態の例

次の例は、手動および自動でイベントの状態が変化する様子を示しています。

「クラスタに到達できません」イベントがトリガーされると、その時点でイベントの状態は「新規」になります。そのイベントを確認すると、イベントの状態は「確認済み」に変わります。イベントに適切に対処したら、イベントを解決済みとしてマークする必要があります。これにより、イベントの状態は「解決済み」に変わります。

「クラスタに到達できません」イベントが生成された原因が停電であった場合は、電源が復旧すると、管理者の介入なしでクラスタが再開されます。そのため、「クラスタに到達できません」イベントは有効でなくなり、イベントの状態が次回の監視サイクルで「廃止」に変わります。

Unified Managerでは、イベントが「廃止」または「解決済み」の状態になるとアラートを送信します。このアラートのEメールの件名と内容に、イベントの状態に関する情報が記載されます。また、SNMPトラップにもイベントの状態に関する情報が含まれます。

Active IQ Unified Manager のイベント重大度タイプについて

イベントには、対処する際の優先度を判別できるように、それぞれ重大度タイプが関連付けられています。

- クリティカル

  問題が発生しており、すぐに対処しないとサービスが停止する可能性があります。

  パフォーマンスに関する重大イベントは、ユーザ定義のしきい値からのみ生成されます。

- エラー

  イベント ソースは実行中ですが、サービスの停止を回避するために対処が必要です。

- 警告

  イベント ソースに注意が必要なアラートが発生したか、クラスタ オブジェクトのパフォーマンス カウンタが正常な範囲から外れており、重大な問題にならないように監視が必要です。この重大度のイベントではサービスは停止しません。早急な対処も不要です。

  パフォーマンスに関する警告イベントは、システムまたはユーザ定義のしきい値、あるいは動的なしきい値から生成されます。

- 情報

  新しいオブジェクトが検出されたときやユーザ操作が実行されたときに発生します。たとえば、ストレージ オブジェクトが削除されたときや設定に変更があったときは、情報タイプの重大度のイベントが生成されます。

  情報イベントは、ONTAPで設定の変更が検出されたときに直接生成されます。

Active IQ Unified Manager のイベントの影響レベルについて

イベントには、対処する際の優先度を判別できるように、それぞれに影響レベル（インシデント、リスク、イベント、またはアップグレード）が関連付けられています。

- インシデント

  インシデントは、クラスタによるクライアントへのデータの提供の停止やデータを格納するスペースの不足を引きおこす一連のイベントです。影響レベルが「インシデント」のイベントは、最も重大度が高く、サービスの停止を回避するためにすぐに対処する必要があります。

- リスク

  リスクは、クラスタによるクライアントへのデータの提供の停止やデータを格納するスペースの不足を引き起こす可能性がある一連のイベントです。影響レベルが「リスク」のイベントは、サービスの停止につながる可能性があり、対処が必要な場合があります。

- イベント

イベントは、ストレージ オブジェクトとその属性の状態やステータスの変化を示します。影響レベルが「イベント」のイベントは、情報提供を目的としたものであり、特別な対処は必要ありません。

- アップグレード

  アップグレードイベントは、Active IQ プラットフォームから報告される特定の種類のイベントです。これらのイベントは、ONTAP ソフトウェア、ノードファームウェア、またはオペレーティングシステムソフトウェア（セキュリティ勧告の場合）のアップグレードが解決策として必要な問題を特定します。これらの問題の中には、直ちに是正措置を講じる必要があるものもあれば、次回の定期メンテナンスまで待てるものもあります。

Active IQ Unified Manager のイベントの影響範囲について

イベントは、管理者が担当するタイプのイベントに専念できるように、6つの影響領域（可用性、容量、構成、パフォーマンス、保護、セキュリティ）に分類されています。

- 可用性

  可用性イベントは、ストレージ オブジェクトがオフラインになった場合、プロトコル サービスが停止した場合、ストレージ フェイルオーバーで問題が発生した場合、ハードウェアで問題が発生した場合に通知するイベントです。

- 容量

  容量イベントは、アグリゲート、ボリューム、LUN、またはネームスペースのサイズがしきい値に近づいているか達した場合、または環境の通常の増加率とかけ離れている場合に通知するイベントです。

- 構成

  構成イベントは、ストレージ オブジェクトの検出、削除、追加、または名前変更について通知するイベントです。構成イベントの影響レベルは「イベント」、重大度タイプは「情報」です。

- パフォーマンス

  パフォーマンス イベントは、監視対象のストレージ オブジェクトにおけるデータ ストレージの入力速度や取得速度に悪影響を及ぼす可能性がある、クラスタのリソース、設定、または処理の状況について通知するイベントです。

- 保護

  保護イベントは、SnapMirror関係に関するインシデントやリスク、デスティネーションの容量の問題、SnapVault関係の問題、または保護ジョブの問題について通知するイベントです。セカンダリ ボリュームおよび保護関係をホストするONTAPのオブジェクト（アグリゲート、ボリューム、およびSVM）は、いずれもこの影響領域に分類されます。

- セキュリティ

  セキュリティイベントは、 "NetApp ONTAP 9 セキュリティ強化ガイド"で定義されたパラメータに基づいて、ONTAPクラスター、ストレージ仮想マシン（SVM）、およびボリュームのセキュリティ状態を通知します。

  さらに、この領域には、Active IQプラットフォームから報告されるアップグレード イベントも含まれま

す。

Active IQ Unified Manager がオブジェクトのステータスを計算する方法

オブジェクト ステータスは、現在の状態が「新規」または「確認済み」である最も重大度の高いイベントによって決まります。たとえば、オブジェクト ステータスが「エラー」の場合は、オブジェクトのいずれかのイベントの重大度タイプが「エラー」となっています。イベントに対処すると、イベントの状態は「解決済み」になります。

Active IQ Unified Manager の動的パフォーマンスイベントについて

動的なパフォーマンス イベントに関する情報として、[イベントの詳細]ページの[システム診断]セクションに、レイテンシが高いワークロード、または競合状態のクラスタ コンポーネントの使用量が多いワークロードが表示されます。

パフォーマンス統計は、パフォーマンス イベントが検出されてからイベントが最後に分析されるまでの時間に基づいています。このグラフには、競合状態のクラスタ コンポーネントの過去のパフォーマンス統計も表示されます。

たとえば、コンポーネントの利用率が高いワークロードを確認して、利用率が低いコンポーネントに移動するワークロードを特定できます。ワークロードを移動することで、現在のコンポーネントにかかる作業量が減り、場合によってはそのコンポーネントが競合状態から外れる可能性があります。このセクションの上部には、イベントが検出され、最後に分析された時刻と日付の範囲が表示されます。アクティブなイベント（新規または確認済みのイベント）の場合は、最後に分析された時刻が更新されます。

レイテンシとアクティビティのグラフにカーソルを合わせると、上位のワークロードの名前が表示されます。グラフの右側にある「ワークロードタイプ」メニューをクリックすると、ワークロードをイベントにおける役割（*sharks*、*bullies*、_victims_など）に基づいて並べ替えることができ、競合しているクラスタコンポーネント上でのレイテンシと使用状況の詳細が表示されます。実際の値と期待値を比較することで、ワークロードのレイテンシや使用量が想定範囲外になった時期を確認できます。詳細については、"Unified Managerで監視されるワークロードのタイプ"を参照してください。

> レイテンシのピーク偏差でソートする場合は、システム定義のワークロードがテーブルに表示されません。これは、レイテンシがユーザ定義のワークロードにのみ適用されるためです。レイテンシの値が小さいワークロードはこのテーブルに表示されません。

動的パフォーマンスしきい値の詳細については、"動的なパフォーマンスしきい値で生成されたイベントの分析"を参照してください。

Unified Manager がワークロードをどのようにランク付けし、ソート順を決定するかについては、"Unified Managerがイベントによるパフォーマンスへの影響を判定する仕組み"を参照してください。

グラフ内のデータには、イベントが最後に分析されるまでの24時間のパフォーマンス統計が示されます。各ワークロードの実際の値と想定値は、ワークロードがイベントに関連した時間に基づいています。たとえば、イベントの検出後にワークロードがそのイベントに関連した可能性があるため、パフォーマンス統計がイベント検出時の値に一致しないことがあります。デフォルトでは、レイテンシのピーク（最大）偏差でワークロードがソートされます。

Unified Managerは、5分間隔の履歴パフォーマンスデータとイベントデータを最大30日間保持するため、イベントが30日以上前のものである場合、パフォーマンスデータは表示されません。

- ワークロードソート列
  - レイテンシーチャート

    前回の分析中の、ワークロードのレイテンシに対するイベントの影響が表示されます。

  - コンポーネント使用状況列

    競合状態のクラスタ コンポーネントのワークロードの使用量に関する詳細が表示されます。グラフでは、実際の使用量は青い線で表示されます。赤のバーは、イベント期間（検出時間から最後の分析時間まで）を示します。詳細については、"ワークロード パフォーマンスの測定値"を参照してください。

    ネットワーク コンポーネントの場合は、クラスタ以外のアクティビティに基づいてネットワーク パフォーマンス統計が作成されるため、この列は表示されません。

  - コンポーネントの使用法

    ネットワーク処理、データ処理、およびアグリゲート コンポーネントの利用率（割合）の履歴またはQoSポリシー グループ コンポーネントのアクティビティ（割合）の履歴が表示されます。ネットワーク コンポーネントまたはインターコネクト コンポーネントについてはこのグラフは表示されません。統計にカーソルを合わせると、特定の時点における使用状況を表示できます。

  - 書き込み合計**MB/s**履歴

    MetroClusterのリソース コンポーネントの場合にのみ、MetroCluster構成のパートナー クラスタにミラーリングされるすべてのボリューム ワークロードについて、書き込みスループットの合計が1秒あたりのメガバイト数（MBps）で表示されます。

  - イベント履歴

    競合状態のコンポーネントの過去のイベントを示す赤い影付きの線が表示されます。廃止状態のイベントの場合は、選択したイベントが検出される前に発生したイベントおよびそのイベントが解決されたあとに発生したイベントがチャートに表示されます。

Active IQ Unified Manager によって検出された構成変更

Unified Managerは、クラスターの構成変更を監視し、変更がパフォーマンスイベントの原因となった、またはパフォーマンスイベントに影響を与えたかどうかを判断するのに役立ちます。Performance Explorerページには、変更が検出された日時を示す変更イベントアイコン（）が表示されます。

[パフォーマンス エクスプローラ]ページと[ワークロード分析]ページのパフォーマンス グラフで、変更イベントが選択したクラスタ オブジェクトのパフォーマンスに影響していないかどうかを確認できます。パフォーマンス イベントと同時かその前後に変更が検出されていれば、その変更が原因でイベントのアラートがトリガーされた可能性があります。

Unified Managerは、情報イベントとして分類される以下の変更イベントを検出できます。

- ボリュームがアグリゲート間で移動されたとき。

  Unified Managerは、移動が進行中、完了、または失敗したことを検知できます。ボリュームの移動中にUnified Managerがダウンした場合、Unified Managerが復旧すると、ボリュームの移動を検出し、その変更イベントを表示します。

- 1つ以上の監視対象ワークロードを含むQoSポリシー グループのスループット（MBpsまたはIOPS）の制限が変更されたとき。

  ポリシー グループ制限を変更するとレイテンシ（応答時間）が一時的に長くなることがあり、ポリシー グループのイベントがトリガーされる可能性もあります。レイテンシは徐々に正常に戻り、発生したイベントは廃止状態になります。

- HAペア内のノードは、パートナーノードのストレージをテイクオーバーしたり、パートナーノードに返還したりします。

  Unified Manager は、テイクオーバー、部分テイクオーバー、またはギブバック操作が完了したことを検出できます。テイクオーバーがパニック状態のノードによって引き起こされた場合、Unified Manager はそのイベントを検出しません。

- ONTAPのアップグレードやリバートの処理が正常に完了したとき。

  以前のバージョンと新しいバージョンが表示されます。

著作権に関する情報

Copyright © 2026 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および / または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータ ソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用権を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用権については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、http://www.netapp.com/TMに記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。